

平成 30 年 11 月 13 日

会社名 中越パルプ工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 加藤 明美
 (コード番号 3877 東証第1部)
 問合せ先 経営管理本部副本部長
 兼 管理部長 石原 秀樹
 (TEL. 0766-26-2404)

平成31年3月期第2四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記のとおり平成31年3月期第2四半期累計期間業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、併せて通期の業績予想について、発表内容を以下のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

1. 平成31年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想との差異(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	47,500	▲1,000	▲900	▲1,200	▲89.87
実績値(B)	45,503	▲878	▲612	▲492	▲36.90
増減額(B-A)	▲1,996	121	287	707	
増減率(%)	▲4.2	—	—	—	
(ご参考) 前第2四半期実績 (平成30年3月期第2四半期)	46,125	▲113	▲231	▲74	▲5.61

2. 平成31年3月期通期連結業績予想の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	97,500	0	0	100	7.49
今回修正予想(B)	96,000	50	300	200	14.98
増減額(B-A)	▲1,500	50	300	100	
増減率(%)	▲1.5	—	—	100.0	
(ご参考) 前期実績 (平成30年3月期)	94,824	▲1,242	▲1,293	▲5,206	▲389.96

3. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想との差異（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	45,000	▲1,100	▲1,000	▲1,300	▲97.36
実績値 (B)	42,754	▲1,001	▲753	▲601	▲45.03
増減額 (B - A)	▲2,245	98	246	698	
増減率 (%)	▲5.0	—	—	—	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	42,956	▲414	▲364	▲123	▲9.28

4. 平成 31 年 3 月期通期個別業績予想の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	92,000	▲350	▲250	0	0.00
今回修正予想 (B)	90,000	▲250	0	0	0.00
増減額 (B - A)	▲2,000	100	250	—	
増減率 (%)	▲2.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期)	88,534	▲1,795	▲1,806	▲5,626	▲421.37

5. 差異および修正の理由

平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績につきましては、想定より印刷情報用紙の需要の落ち込みが激しく売上高は減少しましたが、営業利益・経常利益につきましては、コスト低減を推し進めたことや、パルプ市況が堅調に推移したこともあり当初計画を上回りました。また、当第 2 四半期累計期間において、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、法人税等調整額が利益方向へ増加したため、純利益につきましては当初計画を大幅に上回りました。

通期の業績予想につきましては、木材チップや薬品を始めとする原燃料価格の高止まりに加え、上期後半からの古紙価格の急騰が続くと想定されるものの、洋紙の価格復元や、今後も紙からパルプへの転換並びにコストダウンを推進することで、前回予想を上回る見込みです。

(注) 上記に記載した予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいた見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、今後様々な要因の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上